

第1部

調査の概要

第1部 調査の概要

第1 調査の目的

本県における青少年の意識や行動を把握し、青少年に関する施策の総合的な推進のための基礎資料を得るとともに、広く県民に紹介することにより、青少年の健全育成に対する理解と協力を得る。

第2 調査の方法

質問紙による無記名集団調査

第3 調査の対象

小学校（17校）、中学校（15校）、高等学校（12校） 計44校

小学校6年生447人（男子226人、女子221人）

中学校2年生409人（男子205人、女子204人）

高等学校2年生440人（男子201人、女子239人）

計1,296人（男子632人、女子664人）

第4 調査の実施期間

平成26年8月から平成26年9月

第5 調査項目

1. 地域のこと

住んでいる地域への評価、地域の大人へのあいさつ、地域の大人からのあいさつ
声かけに対する心境、地域活動への参加、ボランティア活動への参加
ボランティア活動をする理由、地域活動へ参加しない理由

2. 世の中のこと

世の中の出来事に対する関心

3. 学校のこと

学校生活への満足度、学校生活が楽しい理由、学校生活が楽しくない理由

4. 家族・家庭のこと

家族・家庭への評価、家族との会話の頻度、家族の中で一番話をする人
一番話をする理由、家族との約束ごと、家族や家庭に大切なこと
周囲の大人について、周囲の大人に望むこと

5. 自分のこと

自己への評価、自身への思いやり、他人への思いやり、命について、悩みごと
悩みごとの相談相手、相談しない理由

6. メディア・コミュニケーションのこと

友だちとのコミュニケーション方法、携帯電話・スマートフォンの所有状況と使用目的、SNSの参加目的、LINEの使用目的、フィルタリング機能の認知状況と利用状況、自由に使えるパソコンの所有状況と使用目的、年齢が制限されているサイトへのアクセス状況、悪口やいじめにつながる書き込みへの認知状況、ゲーム機や携帯音楽プレーヤーを使ったインターネット・LINE等の利用状況

7. 生活規範に対する意識

生活規範に対する意識

8. 社会変化に対する意識

社会変化に対する意識

9. 就労に関する意識

将来の就労意識、職業選択で大切なこと

第6 時系列比較について

この調査報告書では、下記（過去3回）の調査結果との比較分析を行なっている。これらの調査は本調査と同様に、本県における青少年の意識や行動を把握し、青少年に関する施策の総合的な推進のための基礎資料を得ることを目的として、平成20年度、22年度、24年度に実施したものである。

それらの結果と照合して、共通質問を行った部分について比較を試みた。本報告書への記載にあたっては、次のように表記している。

●【時系列比較（平成20年度調査比較）】

平成20年度「青少年の意識に関する調査結果報告書」を用いた時系列比較分析

●【時系列比較（平成22年度調査比較）】

平成22年度「青少年の意識に関する調査結果報告書」を用いた時系列比較分析

●【時系列比較（平成24年度調査比較）】

平成24年度「青少年の意識に関する調査結果報告書」を用いた時系列比較分析

それぞれの調査概要は次の通りである。

1. 平成20年度「青少年の意識に関する調査」結果報告書

(1) 調査対象者

県内の小学校6年生、中学校2年生、高等学校2年生

(2) 有効回答者数

児童・生徒1,258人

(3) 調査実施期間

平成20年10月～11月

2. 平成22年度「青少年の意識に関する調査」結果報告書

(1) 調査対象者

県内の小学校6年生、中学校2年生、高等学校2年生

(2) 有効回答者数

児童・生徒1,255人

(3) 調査実施期間

平成22年10月～11月

3. 平成24年度「青少年の意識に関する調査」結果報告書

(1) 調査対象者

県内の小学校6年生、中学校2年生、高等学校2年生

(2) 有効回答者数

児童・生徒1,300人

(3) 調査実施期間

平成24年6月～7月

第7 報告書を見る際の留意点

比率はすべてパーセントで表し、小数第2位を四捨五入して算出した。そのため比率の合計が100パーセントにならない場合がある。

また、2つ以上選択するために、比率の合計が100パーセントを超える場合がある。

第8 回答者の属性

性別・学年（回答者数：1,296人）

小学6年生		中学2年生		高校2年生		合 計	
男子	226	男子	205	男子	201	男子	632
女子	221	女子	204	女子	239	女子	664
計	447	計	409	計	440	計	1,296